小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

観音寺市立伊吹小学校

関連項目：教育活動プラン④

全校交流活動を推進し人とつながる喜びを味わう

目的

本校は全校児童が１４名であり、全校交流の場が設けやすいという特徴があります。その特徴を活かし、児童会活動や集会活動などは縦割りグループで活動し、学年差を越えて助け合うすばらしさを体験させることとしました。

内容

● 島四国で来島者を「お接待」

伊吹島では、毎年旧暦の３月２１日に島内の８８ヵ所のお地蔵様を行脚する「島四国」という行事が行われます。毎年多くの人が来島するため、島の一大イベントとなっています。この「島四国」は、島民の方の間では「お接待」と呼ばれ、各所で飲み物や伊吹島特産のいりこなどが配られています。

そこで、本校では児童も来島者を「お接待」する場を設定することで、自分の住む地域について深く知りそれを発信していく力を身に付けさせています。

「お接待」の前に、児童は縦割りのグループに分かれて８８ヵ所を回ります。「お接待」では、全校児童による「ようこそ伊吹へ」のかけ声で来島者を迎えました。そして全校児童で東日本大震災の募金を呼びかけ、募金をしてくれた方には手作りのキャンドルをプレゼントしました。このキャンドルは、すべて５・６年生が作りました。

● 全校児童による劇

１１月に行われた「ふるさと学習発表会」では、全校児童１４名全員で劇を行いました。学年に応じて役割を分担し、高学年と低学年が協力して演じる場面も設定しました。当日は大勢の島民の方々に披露しました。

● 高齢者ふれあい訪問

毎年２月には、島の一人暮らしのお年寄りの家を訪問する「高齢者ふれあい訪問」を行っています。児童, 生徒が異年齢の２～３人の班をつくり、お年寄りの家を５軒程訪問します。訪問時には昔の伊吹島の話や長生きの秘訣などを質問して答えて頂いています。島のお年寄りは毎年子どもたちが訪問して来るのを楽しみにしてくださっています。

成果

４月の島四国の縦割り活動では、まだ上級生になりたてで下級生への配慮の仕方が分からず、島内を巡るとき下級生が遅れていても声かけがありませんでした。その都度、立ち止まって下級生を待つことや荷物を持ち手助けすることを助言しました。活動終了時の下級生からの「ありがとう」の言葉で、上級生が先頭に立つ大切さを感じ取っていました。その後の学校生活やふるさと学習発表会の発表練習・高齢者ふれあい訪問などでは、下級生が困っていると「こっちに来なよ」と声をかけるなど、何かと上級生から下級生への気遣いがあり、下級生も頼りにして行動できています。下級生に慕われる喜びを知ることで、上級生としての自覚がしっかりと芽生えてきました。